

馬獣医のよもやま話② 藤本起彰獣医師

咽喉頭の内視鏡検査について

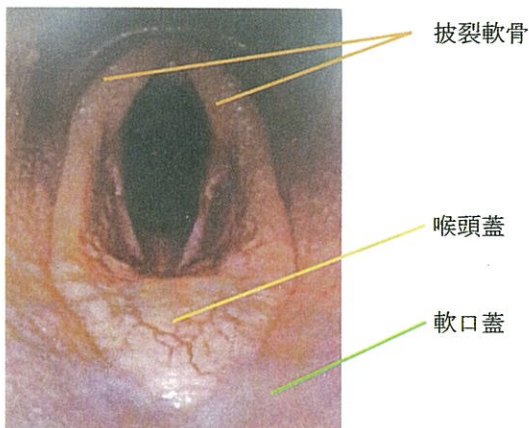
門別診療所 藤本 起彰 三重県出身
平成22年 麻布大学卒業
同年4月 日高軽種馬農協門別診療所勤務

門別診療所勤務3年目の藤本起彰と申します。7月に入り、やっと夏らしい気候となりました。繁殖シーズンもほぼ終了し、皆様におかれましては牧草やセリの準備でお忙しい毎日をお過ごしのことと思います。

さて今回はレポジトリーにおける喉の内視鏡検査の際に認められる所見についての話題です。内視鏡検査の後、撮影した獣医師からいろいろな説明を受けると。「目いっぱい開くけど披裂軟骨の動きが左右対称じゃない」、「深呼吸した時に左の披裂軟骨がいつまで開かない」などなど。説明を受けてもわかったようなわからないような…、というのが正直なところだと思います。レントゲン検査にしろ内視鏡検査にしろ、画像を見て最終的に判断するのは購買者側ではありますが、販売申込者側がセリに出す自分の馬の状態をはっきりと把握しておくことは重要なことだと思います。そこで今回は、喉の内視鏡検査で認められる所見のうち、喉頭片マヒについて触れてみたいと思います。

1 部位の名称

下の写真は内視鏡で喉を除いた時のものです。

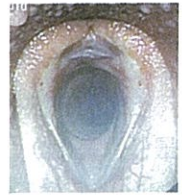


2 披裂軟骨の動きの評価

軽種馬農協では左右の披裂軟骨の動き方、開き具合を、4つのグレード(もっとも状態の良いグレード1から、もっとも状態の悪いグレード4まで)に分けて評価しています。尚、鎮静剤を使用すると披裂軟骨の動きが悪くなるという報告もあるため、できる限り鎮静剤を使用せずに撮影しています。

グレード1

左右の披裂軟骨はともに最大まで開き、かつ左右の披裂軟骨は同調して(左右対称に)動いている状態。



グレード2

左右の披裂軟骨はともに最大まで開くが、左右の披裂軟骨の動き方が同調していない(左右対称ではない動き方をする)状態。

グレード3

左右の披裂軟骨の一方が最大まで開かない状態

グレード4

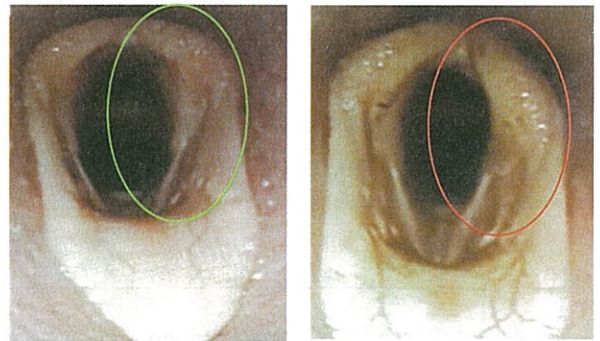
左右の披裂軟骨の一方が完全に麻痺して動かない状態



披裂軟骨の動きは、今後歳を重ねるにつれて悪化することはあっても良化することはほとんどないということが、購買者側が慎重になる大きな理由となります。グレード3とグレード4の馬はレポジトリー未提出かつ落札後の検査で発覚した場合は当市場規定によりキャンセル対象となります。

3 なぜセリのたびに新たな撮影が必要なのか

先程、披裂軟骨の動きは悪化することがあると述べました。



上の左の写真はある年のセリに上場した馬の喉の内視鏡検査時のものです。披裂軟骨の動きのグレードは2でした。対して右の写真は同じ馬が数か月後のセリに上場した時のものです。披裂軟骨の動きのグレードは3です。わずか数か月の間に喉の動きの悪化が認められました(両方とも鎮静剤は使用せずに撮影)。

セリ上場馬の情報公開という観点からレポジトリーを捉えんとするならば、セリの質を向上させるためにも、馬の売買後のトラブルを避けるためにも、上場馬の最新の状態を公開することが必要となるのです。